

TENOHASI

てのはし／地球と隣のはっぴい空間池袋

会報誌第43号 2022年9月1日発行



522人が並び、歴代最多記録を更新した5月22日の炊き出し

- P 2 「手の橋」を求めて コロナ禍三年目の報告
- P 7 今も尚
- P 9 ちゅんたの想い
- P15 TENOHASI 活動報告 炊き出し・夜回り・医療相談・生活相談・鍼灸・会計他
- P24 新人スタッフ自己紹介
- P26 ご寄付ありがとうございました

「手の橋」を求めて

コロナ禍3年目の報告

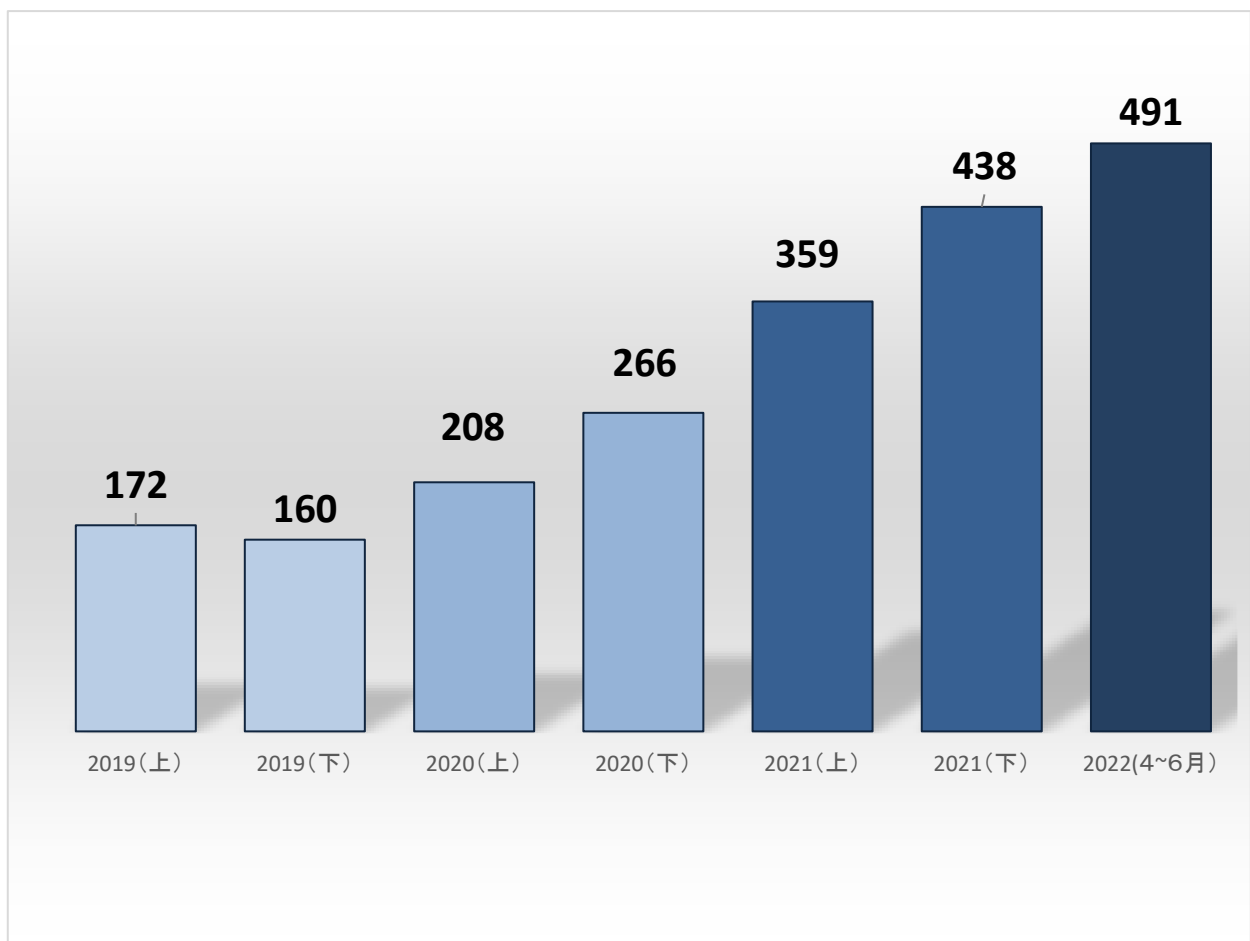
てのはしが発足した2003年から2019年までの16年間、てのはしの炊き出しに並ぶ人の数はだいたい200人前後で推移してきており、2015年くらいから減少傾向にありました。路上生活者も全国的に減少し、日本のホームレス問題はそのまま静かに終

息していくのかと思われました。

しかしコロナ禍で状況は変わりました。サービス業を中心に多くの産業が大打撃を受け、炊き出しに並ぶ人は急増しました。新型コロナウイルスの感染者数は増減を繰り返しています。が、炊き出しに並ばれる方は一貫して増加傾向が続いています。最近では400、500人以上の方が食事のために天候に関わらず並ばれているのが現状です。

炊き出しに並んだ人の数を、コロナ前の2019年からの半年ごとの平均をみると、見事な肩上がりがあります。*下図参照

コロナ禍初年度の2019年は、生活困窮の「波が来た」と感じる程度でしたが、2年以上経過した今は「津波が来た」と感じてい



ます。しかもその津波は終わりが見えません。

炊き出しの場の雰囲気も大きく変わりました。コロナ禍前は現役の路上生活者と、生活保護などを受けて路上から脱した元路上生活者がほとんどで、多くは顔見知りでした。手作りのホカホカご飯をその場でお腹一杯食べて、身体が温まり、こころが満たされました。また、炊き出しを食べる方同士や、スタッフとの語らいの場でもありました。

しかしコロナ禍になってからは、感染防止のためにお弁当は持ち帰り・会話は禁止とせざるを得ず「こころ満たされる」雰囲気は失われました。

また、並ぶ方々の顔ぶれも変わりました。

今回はコロナ禍で新たに炊き出しに並ぶ方ようになって

った方々について、二人の例からお話します。

一人目は、ハンバーガーショップで働いていた28歳の服部君です。アルバイトから店長に起用され、順調に働いていましたが、コロナ禍で営業時間が短縮され、アルバイトが削られ、時間帯によってはワンオペ営業を強いられました。過酷な労働環境で体調を崩し退職。失業保険と貯金があったのですが、すぐに路頭に迷うということにはなかつたものの、体調はなかなか回復せず、先が見えない状況になってしまいました。いよいよ切羽詰まった時に『東京ご飯 ただ』とスマホで検索して、炊き出しがあることを知りました。そのときのことを彼は「不安ばかりでした。失業保険があるうちに仕事を探さないと・・・でもいつから仕事に復帰できるのか・・」と焦燥感で

悶々とした日々だったと語ってくれました。

初めて炊き出しに並んでみて、予想を遙かに超える人の列を見て衝撃を受けたとも言います。「年配の男性が多いのかと思っていたけれど同年代も多いんだな、女性も、シングルマザーかなと思う子連れの人もいました」とその多様性に驚いたそうです。

彼は炊き出しで弁当を受け取り、さらに医療相談で不眠対策のアドバイス、生活相談では生活保護など支援制度の説明も受けました。

「今は支援をしてもらうけど早いうちになんとかここから抜けだそう」と決意して就職に成功。今は元気に働きながらのはしの炊き出しでボランティアスタッフとして活動しています。

*服部君の詳しいインタビューはてのし会報誌42号に掲載しています。てのしサイトの飛んでお読みください。

服部君の例から考えてみましょう。

まず言えるのは、それまでは普通に働いていた方々が炊き出しに並んでいることです。

昨年、炊き出しに並ぶ人に「新型コロナワクチンの接種券を受け取れますか」とアンケートを行ったところ「受け取れる」と答えた人が半分以上でした。その方々は家があると考えられるので、今、炊き出しに並んでいる人の半分以上はホームレス状態ではないと推測できます。

そのような方が炊き出しに並んでいるのは、服部君のように、コロナ禍で収入が減ったうえに、物価高も

追い打ちをかけ、生活が安定する兆しが見えず、先行きに不安を感じて、やむにやまれず炊き出しを訪れているのだろうと推測しています。

一ヶ月に2回の炊き出しで削れる食費はたかがしれているかもしれない。しかし、炊き出しは単に食糧を配るだけでなく「困窮して、社会からはじき出された」と感じている人たちにエールを送って、「一人ではない」と感じられる場でもありたいと思います。

かつて炊き出しに並んで、今、炊き出しをする側に回った服部君は、参加する理由を「困ったときに、物理的にも精神的にも助けられる人がいるというのは励みになりました。困ったときに助けがあるのはとても大事です」と語っています。

炊き出しに並ぶ人の若年化は確実に進んでいます。生活相談に来る人の半分以上は40代以下の働き盛りの世代で、今や若者がスマホ片手に並ぶ姿も当たり前となりました。

*今はスマホが情報の命綱となつてきていることから、炊き出しの日の公園内では連携団体のつくりい東京フアンドが無料Wi-Fiを設置してくれています。

さまざまな人たちが炊き出しに並ばれている現実があります。その一方で、生活困窮の波があらゆる階層を襲っているわけではないということも言えます。生活相談に来る人で一部上場企業の社員や公務員だった人などほとんどいません。育ちがよく見えても、よくよく話を聞けば育った家庭が貧しく、低学歴であったり、軽度の障害を抱えていたりして、コロナ禍前

から困窮していたという方が大部分です。そのような方がコロナ禍で真っ先に切り捨てられてどん底に突き落とされたという印象があります。

また、驚くほど児童養護施設出身者が多いという事実もあります。年齢層に関係なく、家庭の支援が得られない人たちが真っ先に困窮することがわかります。

炊き出しに並ぶ人の中に女性が増加したことも顕著な変化です。

二例目として、大林三佐子さんについてお話ししたいと思います。

大林さんは1956年広島生まれ。人と接するのが大好きで、アナウンサーになるのが夢でした。地元劇団に所属し、明るい性格で人気者だったそうです。

27歳で結婚して上京したものの、夫の暴力が原因で離婚。その後地元に戻りコンピュータ関連の会社に就職したものの「仕事についていけない」と悩んで30歳で退職。再び上京し、その後は数年おきに転職する生活を送っていたようです。家族思いで、母と弟へかわいい自筆イラスト入りのクリスマスカードを欠かすことはありませんでした。

そしていつしかマネキン仕事（スーパーやデパートなどで試食・実演販売を行う）をするようになりました。人と接するのが好きな大林さんは、お客さん相手に生き生きと働いて、子どもたちにも人気だったそうです。しかし賃金は安く、生活は苦しく、家賃を滞納して大家さんにも黙って部屋を出た後は、ネットカフェなどを転々するようになりました。



りました。マネキンの仕事は続けていたようですが、家族に手紙を送ることはなくなっていました。

そして2022年、コロナ禍が襲いました。対面の試食販売の仕事は全滅。何の保障もなく仕事を失った大林さんはスーツケースに荷物を入れて街をさまようしかなかったようです。

いつしか、渋谷区のバス停で終バスから始発までの数時間座って休んでいる大林さんの姿が見られるようになりしました。心配した街の人が差し入れをしようとしても優しい笑顔で「私は大丈夫」と断っていたそうです。

2020年11月16日の早朝、大林さんは石とペットボトルが入った袋で殴られて亡くなりました。犯人は近くに住む、精神を病んで家業の酒屋を母と営んでいた40代の男性で、警察の調べに対して「邪魔だった。お金をあげるからバス停からどいてほしいと頼んだが、断られて腹が立った」という供述があります。

*大林さんについては、すべて新聞・テレビ番組からの情報です。

コロナ前、てのはしの炊き出しで女性の占める割合は1%程度で、そのほとんどが高齢者でした。しかしコロナ禍の現在は5〜10%近くとなっています。きれいな服装をしてメイクした方や、母子連れの女性も並ぶことも多く、女性も若年化が進んでいます。

コロナ禍で真っ先に仕事を失った方の多くは大林さんのように非正規雇用で働いてきた女性で、そのかなりの部分が飲食や大林さんのマネキンなどのサービス業であるとわかっていきます。もともとぎりぎりの生活で苦しんでいたところに、コロナ禍で大きな打撃を受けて困窮し、炊き出しに並ぶようになった方が多いことが増加の原因でしょう。

因みに、女性の割合が今でも約10%というのは、男性と比較して女性の困窮

者が少ないと示すことを行っているわけではありませんが、ある女性から「暗い公園で、男性ばかりの列に並ぶことは女性にとって恐怖。並ぶことを何回も諦めた」という声を聞きました。炊き出しに並びたいけれど並べない女性は相当数いることが予想されます。

そのような方が最後に頼るべきは生活保護です。生活保護法では「住所がない人は現在いる場所の福祉事務所が保護の責任を負う」と定めていることから、家がない人も申請可能です。しかし、大林さんが生活保護の申請や相談をした記録はこの役所にもありませんでした。

大林さんのように、孤立して誰にも相談できずに一人で耐えている女性もまた多いのではないかと思います。孤立は貧困の原因の一つであり、その度合いをさ

らに深める大きな要因です。

大林さんがなぜ生活保護の相談にも行かなかったのかは推測するしかありません。家を失った上にコロナ禍で失業し、もう何も考えられず、前に進むこともできない状態だったのかもしれない。夢に溢れた青春時代だったのにすべてを失ってしまった今の自分が許せなかったのかもしれない。そもそも生活保護が受けられること自体を知らなかったのかもしれない。知っていても親兄弟に連絡が行く可能性があることから心配させたくないと思っただのかもしれない。人に迷惑を掛けたくない、その一心だったのかもしれない。

実際、コロナ禍でも生活保護の申請者数は微増の状態です。困窮した人が急増しているのに生活保護の申

請が増えない理由は『生活保護についての否定的なイメージ』と、『扶養照会で親族に連絡が行く』ことであると考えられます。困窮した人の多くは生活保護を受けるとしても各種の貸付金（緊急小口資金など）を受け取ることを選ばれ、窓口の社会福祉協議会には長蛇の列ができました。生活保護がもつと利用しやすく、「困ったときは助けを求めていい」ということが社会全体の合意になれば大林さんの人生もまた違った展開があったのかもしれない。

それまで慎ましいながらも希望を持って生活していた方が、困窮へ追いやられてしまっている現実があります。

このお二人の例からも、困窮と闘って生き抜くためには、相談できる場が必要であると感じられます。

経験者によると、失業などで孤立すると人と話す機会が無くなり、ひとりで『もうだめだ』と不安のループに陥ってしまいがちだといえます。また、炊き出しなどの支援があることは知っていても、とくに若い方や女性が会場を探し出し、列に並んでお弁当を受け取るまでには多くの勇気とエネルギーが必要かもしれません。



それでもボリュームたっぷりのお弁当でお腹を満たせば『勇気を出して受け取りに来てよかった』と安心感と自己肯定感から心がほぐれるでしょう。お弁当を受け取る際に『はい、どうぞ』『ありがとう』という言葉を交わすだけでも何かが変わるかもしれません。

そして相談コーナーに行ければ、これまでの苦労を話して、今後のことを一緒に考えることができます。それは新たな生活への一歩です。

孤立した人が炊き出しに行くことでところが温まり、並んでいる人や支援者と繋がって、いつか東池袋中央公園に虹のような『手の橋』がかかることを夢見て、これからも活動を続けたいと思います。

清野賢司

今も尚

ここ約2年、コロナの影響で生活困窮状態に陥る方が増加し、私たちの活動も注目を浴び、支援の範囲も広がりを見せた。

しかし、忘れてはならないのが、障害を抱えてホームレス状態に陥っている人々の存在だ。

ホームレス状態にある障害をもった人たちは、それぞれの世界観があり、客観的に治療や支援が必要と思われるも、本人に病識がなく、生活保護等の制度の利用を勧めても何かしらの理由で気が向かず、申請主義である制度にはつなげることが難しい状況にある。

例えばこんな理由だ

「ある“事件”が解決しなければ生活保護は受けない」

「どこに行ったって同じよ。“やつら”はどこまでも追っかけてくるの」

「殺人事件に巻き込まれている家族を助けなければ」



「わたしは病気がじゃないわ。ちゃんと根拠があるから」

ある一人の女性がいた。20年以上転々と路上生活をしてきた方だった。相談を受けてとりあえず私たちの用意した部屋に一時的に入ってもらい、本人が承諾したら生活保護を申請してご自分の住まいに移ってもらおうと考えていた。しかし、部屋に入ってからその女性は頑なに生活保護申請を拒ん

だ。本名も何も明かすことを拒んだ。このままではまたこの女性は路上生活に戻ってしまう。困った支援者は、とりあえず部屋の、一時的‘提供を継続し、何度も説得を試みた。だが、彼女は生活保護も本名を明かすことも拒んだまま数年に及ぶ歳月が流れたのであった。

福祉事務所やあらゆる窓口へも何度も相談に行ったが、「お金は欲しいけれど生活保護は受けたくない」と頑なに彼女に対して、相談員さんも寄り添って聴いてくれるものの、「これだけ意思がはっきりしている以上、本人が申請する気にならなければ何にも繋げられない」という。

彼女は部屋からよく叫んでいた。

「やめろー！！」「返せ！！」「いかげんにしてください！！」

天井から、床下から、あらゆるところから攻撃をしかけてくる「奴ら」に威嚇した。

そして、いつだってその何者かに対して話を求めている。

だが、そいつらの声はこちらには聞こえないし、その姿はわたしたちには見えない。

どうしたらいいのか。
彼女は苦しんでいる。助けて欲しい
って心が叫んでいる。

周囲のベテラン支援者に訊くと、
『待つしかない』という。

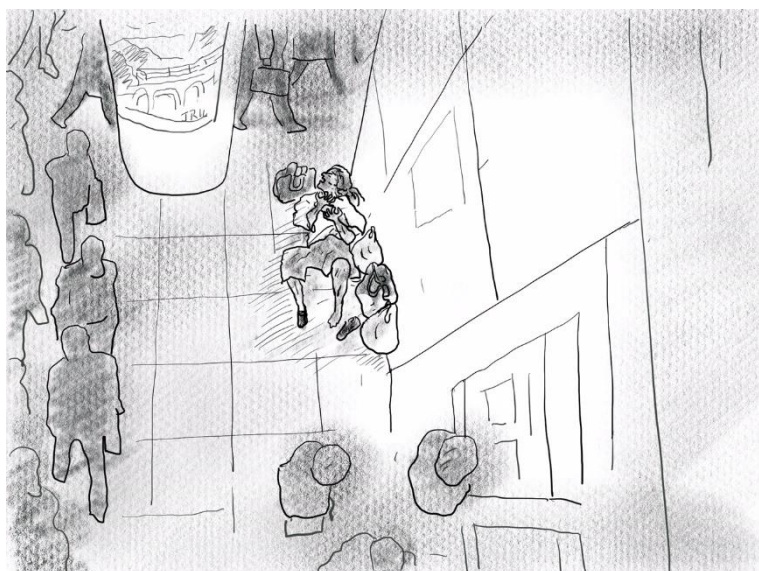
『待つ』って？

彼女がぶっ倒れて病院に運ばれるのを待つしか、必要な医療や制度につながる手段はないのか：

結局、この女性は体調を悪化させて倒れ、いやがる彼女を半ば強引に救急搬送して、その後入院となったのであった。

また、毎週水曜日の夜回りで会う女性
性がいた。毎週顔を合わせ、お声を掛

けるのだが、彼女はいつも言葉少なで食糧も一切を受け取らなかった。
その内、彼女は身体中の皮膚が黒紫色に変色していき、苦しそうに身体を掻きむしって横たわるようになった。
通る人も心配して、飲み物や食べ物を置いて声をかけている。心配の声はわたしたちのところにも届いた。



そのように苦しい状況になっても、
彼女は誰にも助けを求めることはなかった。

医師を交えて根気強くスタッフが毎週話しかけた。段々と話をしてくださるようになっていったが、しかし彼女の世界観とこちらの投げかけは噛み合うことはなかった。

そのうちその女性は、警備員さんに詰め寄られ、その場から追い出されるように姿を消してしまった。

ホームレス状態にある人たちの中に一定数の障害を抱えている人たちがいると調査でわかってから、十年以上が経過した。コロナ渦で困窮者支援も変容したが、その中でも、制度の谷間から落ち、もがき苦しんでいる人がいままも変わらずいることを忘れてはならない。

生活相談員 平田聖子

イラスト・たけうちみき

インタビュー ちゆんたの思い

「Chuntaの気まぐれ通信」を見たことはありますか？今年2月ごろから、炊き出しのときに配られるチラシです。「ちゆんた」さんからのメッセージ・TENOHASIからの支援情報・お弁当のメニュー・季節の便りなどが美しい色彩で綴られていて、並ぶ人もスタッフも心癒やされています。

作者の「ちゆんた」さんはコロナ禍で失業して困窮した30代の女性です。今号ではちゆんたさんにインタビューさせて頂きました。

*プライバシー保護のため、一部を換えています。

*せいインタビューア（清野）

*ちいちゆんた

せ：ではよろしくお願ひします。早速ですが出身はどちらですか？

ち：神奈川県某市です。父は普通のサラリーマン、母は専業主婦でした。

せ：子どもの頃はどんな感じでしたか？

ち：ずいぶんと漠然とした質問ですね(笑)。小さい頃は虫取りに夢中。小学校では、女子のグループみたいなのが苦手です。そうすると女子からハブにされるので主に男子と遊んでいました。中学校では卓

球部をやりながら合唱コンクールでは伴奏に燃えたり、勉強に打ち込んでいました。

せ：高校時代はどうでしたか？

ち：勉強は好きだったので、地元の進学校に行きました。自転車で通って、制服がかわいところ(笑)。理系クラスで、受験に備えるために部活は禁止で毎日大量の宿題が出ました。学校が終わってからも図書館で勉強して遅くなると帰るとい生活でした。

せ：そうですね。それで大学受験はどうでしたか？

ち：高校3年になって親と進路について話したときにはつきり言われました「ちゆんたを大学にやる金はない」

せ：ええええ！。突然ですか？

ち：いや、前からそういう空気は感じていました。弟にはゲーム機とか買ってくれるの

にちゆんたがおもちゃとか洋服をねだってもため。

せ：男尊女卑？

ち：それもあるかもしれせん。とにかく親が出してくれないなら今は行けない。だったら絶対自分の力で行ってやるうとおもって、高校を卒業してバイトを始めました。

せ：逆境に立ち向かう反発力がすごいですね。どんなバイトを？

ち：塾講師です。個別指導塾で、中学生から浪人生まで教えてました。

せ：浪人生も？大学に行つてないの？

ち：はい。他の講師はみんな大学生でしたが、私が大学に行っていないことは上の人しか知らなかったと思います。認められて、理系のリーダーにもなりました。

せ：それで浪人生にも指導を！

ち…その塾は取りこぼされてしまったような子が中心で、私も人には言えないけどある意味とりこぼされた境遇だったので共感できる部分が多くやりがいを感じていました。

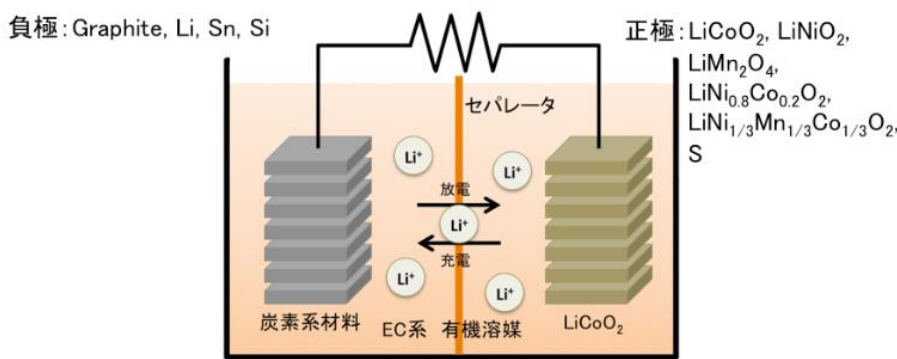
でも仕事で帰る時間が遅いので、母から「うちのルールに従えないなら家から出て」と言われて、21歳で家を出されました。渋谷や青山の流行最先端の洋服屋で働きながら4年間でお金を貯めて、25歳で地方の国立大学に入学しました。

せ…その意志の強さはすごいですね。普通、そんな華やかなどころで働いていたらそのまま流されてしまうのに、大学では何を勉強したんですか？

ち…工学部で次世代蓄電池の研究をしました。

せ…おお、こちらも最先端ですね。来る日も来る日も勉強と実験？

ち…はい、成績がいいと授業料が半額免除されることもあって、勉強と研究には必死でした。でもそれだけじゃなくて、学祭の委員になってゆるキャラを作ったり、皆既日食



を生で見たくて友達と中国のタクラマカン砂漠に行ったリ、大学は楽しかったです。

せ…卒業後は？

ち…研究室の教授が大手企業を紹介してくれましたが、研究所はだいたい田舎なんです。大学時代から田舎はどうにも居心地が悪くて東京に戻りたかった。いろいろさがして、東京の某大学の理工学部の仕事につきました。派遣でしたが、いざれ正規雇用されるとい話だったので。

せ…仕事内容は？

ち…次世代リチウム蓄電池研究の一つを任せられました。

海外の論文を探して翻訳して読みといて、実験材料を仕入れて実験して結果をまとめたり、学会論文にして、それを英語に翻訳して海外に送ったり、5年くらいやっていました。

せ…それはすごい。だから英語も得意なんですね。

ち…でもいつまでたっても正規雇用にはならなくて。

そうこうしているうちにコロナ禍で2020年春に大学が休校になって、派遣契約が打ち切りになったんです。

せ…コロナ禍での失業は営業自粛になった飲食や観光ばかりと思っていました。研究教育の非正規職もそうだったんですね。

ち…失業保険も出しましたが、すぐ次の仕事を探しました。

正規雇用は見つからず派遣でPCR検査の試薬輸入会社に入りました。ファイザーやアストラゼネカなどが使っている試薬を輸入して日本の会社に卸したりする仕事です。英語の論文を顧客に紹介したり、メールでやりとりしました。時給1800円で、週4日6時間という契約。生活は苦しかったです。どこか生活できてました。ところが会社が去年の秋から正社員を入れたので派遣の仕事が半減したんです。

せ…いいように使われちゃったんですね。ひどい…
ち…収入は激減して家賃を払ったら終わり。体調も悪いから他の仕事も入れられなくて、そんなときにアパート契約の更新と家電を買い換える費用などが重なって、それなりにあった貯金が千円にまで減りました。

わらにもすがる思いで元の福祉事務所で相談しました。でも、出てきた相談係の女性がいきなり「あーら、大変なの？どうしたの？」って聞くんです。子供にいうような猫なで声で「今、何に困ってるのかな？」って。「ここは無理。大人として扱われてない」と思っ出てました。

せ…本人は優しく接したつもりだったんですかねえ。相談者に対する人としての敬意が欠けていると思います。

ち…どうにかしなきゃ、と思って板橋区のお寺でやってい

るフードパントリーで相談しました。そこでのはしのことを聞いて、12月のおわりにあった火曜日（最終火曜日のお弁当配布）に行ったんです。

せ…そうでしたね。配り終わって帰ろうかという頃にいきなり自転車倒れる音がして、駆け寄ったら、ちゅんたさんでした。

ち…すぐく迷ったんです。たどり着いた頃は疲れ果てていました。でもそこで話を聞いてもらって、お弁当の代わりにコンビニのスープとグラタンをもらって、それで寒さしのげました。

せ…よかったです。次に年末年始の炊き出しにいらしたんですよね。

ち…はい、体調が悪くてなかなか行けなかつたんですが、大晦日の日に初めていきました。ものすごくたくさんの方が並んでいて、暗くて寒くて、もう帰ろうかと思いまし

た。でも女性のスタッフがいたので「どこに並べばいいんですか」と聞いたら「ここで待っていてください。順番は最後になりますけどお弁当をお渡しします」って言うてくれました。それでお弁当をもらえました。

そこでもらったチラシをみて他の団体にも行きました。セカンドハーベストで食糧をもらって、社会福祉協議会で緊急小口資金の貸付を受けら



れたので「あ、これで生きていける」と思いました。
せ…ハードな綱渡りでしたね。

ち…はい、でも支援を受けながら「もつと大変な人がいる、自分なんか支援を受ける資格はない」とも思っていました。こうなったのは自分が悪い、このまま消えた方がいいと…

せ…1月はお互いによくそんな話をしていましたね。静かに消えるにはどうしたらいいか、とか、でも消える前に必ず連絡してくださいとか…

ち…派遣の仕事は2月末で雇い止めになりました。経済的にも精神的にもギリギリで、節約するためには炊き出しにいかなきゃ、と思って行ってみたんですが、やっぱり怖くて1回目は並ぶこともできずに帰りました。次は並んでみたけど、途中でやっぱり無理と思って帰りました。でも、

Chuntaの気まぐれ通信

2022/5/14

苦しい連休だったかもしれません。
今日もがんばって食事をとりに来られました。
【都心の連休サバイバル】

連休中、皆さまはどのように生き抜いてきましたか。



Chuntaは、晴れていてお外から声がきこえると、
出られない自分にソワソワしてしまいます。
どうにかフードバンクの食品で生きておりました。



年末に残金1000円となり、TENOHASIさんに相談しました。
それまで役所に相談することもためらっていましたが、
社協の貸付金やフードバンクの申込手続きができました。
その後もご連絡をもらえて『ひとりじゃない』と思えます。

そんな私を心配してくれた支援者のみなさんが連絡してくれたり、食糧を届けてくれました。

それで、「私にもなにかできないかな」と考えたんです。炊き出しでお弁当以外に老若男女問わず喜んでもらえるものは何かと考えて、かわいいメッセージカードを思いつきました。大学で学祭委員をやっていたので、そういうのを作るのは得意なんで

登車に 乗って

TENOHASIさんからの
あったか情報
今週の炊き出しのお弁当

さばみそ
弁当



困ったら、ためらわずに生活相談に来てください。
お仕事の紹介(寮付きや日払いなど)、生活保護利用のお手伝いなどしています。



のぞき坂 2022/5/10
23区内で一番急な坂だそうです。
もう登るしかない。
今の私の心境にピッタリ!!

※お問合せ先：090-1611-1970(清野)

す。清野さんに提案して、何パターンか作ってみて「Chuntaの気まぐれ通信」になりました。

せ…2月に第一号ができて、それからほぼ毎回炊き出しで配っています。ちゆんたさんのメッセージ、支援情報や季節の便りが優しい色彩で表現されて、とても人気があります。並んだ女性から「とても癒やされました」と言われたり、医療班のスタッフにフ

アンがたくさんいるとか。いっつもどんなことを心がけて作っているんですか？

ち…辛い思いを抱えた人が軽く「へー」と思える話題を載せて、ちよつと元気になつてくれたらいいと思つています。うつむいている人に「星を見上げてみませんか。惑星が並んでますよ」とか、暑さが辛い夏には「夏を乗り越えるには百均でも買える梅干し！」みたいな(笑)。

次のChunta通信には「夏

休みの思い出」も考えたんですが、夏休みはいい思い出がない人もいるだろうからやめました。誰もが共感できて、明るい気持ちになれる内容を探して作成しています。それと、いろいろな色を使ってワクワク感を出すようにしています。

せ…公園案内係と、並ぶのが難しい人コーナーもちゆんたさんの提案からでした。

ち…私みたいに初めて炊き出しに来た人が安心できるようにしたいなと思つたんです。せ…私もちゆんたさんに言われて暗い炊き出しの列に並んでみて、女性がここで1人でしたら怖いだらうと思いましたが、ちゆんたさんの提案をスタッフと相談して決めたのが2つ。

1 公園の入り口に案内係を置いて、初めての人にはちゆんたさんが作ってくれた案内チラシをお渡しする。

2 「並ぶのが難かしい人コーナー」を作つて、並ぶのが怖かったり身体的につらい人が並ばなくてもお弁当を受け取れるようにする。

どちらも、てのはしの炊き出しでは画期的なことですよ。ち…私のイメージでは、てのはしは新聞紙なんです。

Chuntaの気まぐれ通信

2022/5/28

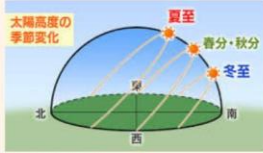
今日もがんばって食事をとりに来られました。
日が長くなったので、空を見上げてみませんか。

【夏至~6/21】

夏至（げし）が近づき日が長くなってきました。
夏至は1年でいちばん昼間が長い日です。

今年の東京の夏至は

日の出 4:25
日の入 19:00
のようです。



皆さまは昼と夜どちらが長い方が好きですか。
何があっても地球はいつも回ってくれています。

TENOHASIさん

あったか情報

今週の炊き出しのお弁当

焼き鳥
弁当



※医療について※

体調に不安のある方は、
医療相談に来てください。
無料の病院の紹介なども
行っています。

※お問合せ先：090-1611-1970(清野)

登車に 乗って

季節のたよりをお届けします。



足立区の土手の夕日
2022/5/18

せ：新聞紙？面白いこと言いますね(笑)。じゃあ、何がいいんですか？上質紙？
ちゅんたさんの提案で新聞紙もだんだん向上してきたので、これから上質紙になれるようによろしくお願いします。
とところで、体調は良くなりましたか？
ち：なっていないんです。

せ：あらら。どんな感じですか？
ち：経験が生かせそうな仕事に幾つも応募しましたが、物価高で応募者も増えているようでなかなか受かりません。今は在宅でエクセルやパワーポイントの研修を受けています。でも、将来も見えないし、頭痛やだるさが続いています。

せ：そうですね・・・頭痛やだるさというのはいつ頃からですか？
ち：子どもの頃からです。それが悪化しています。
せ：え？ そんな前から？
ち：はい。大学に行かせてもらえなかった話をしましたが、うちの母親は昔から理不尽で、自分の考えが絶対なんです。いつも叱られていました。私はしょっちゅう転ぶんですが、そのたびに怒られて、テストで96点とっても「なんで100点じゃないの！」って怒られて。
せ：それはひどいというか、大変というか・・・お母さんとはいつもケンカ？
ち：とんでもない。母の言うことにはすべて「はい」。
私に反抗期はなかったです。「普通」と「ちゃん」という言葉が大嫌いです。
人間はミスして当たり前なのに褒められるには100%

できることが求められました。「私は叱られるために生まれてきたのかな」「100%できない自分はいらない。早く死ねないかな」と子どもの頃から思っていました。

大人になってからはメンタルの病院にも通って、2年くらい前に発達障害の診断を受けました。能力のでこぼこが激しくて、勉強はできるんですけど、生活面で苦勞するところが多いんです。

せ：障害があるという診断を受けてどう思いましたか？イヤだったか、安心したか・・・
ち：やっぱりそうだろうなと思いました。今までの生きづらさを考えたらわかるじゃないですか。それを否定したりイヤがっても仕方ないですから。

せ：すごいポジティブ！でも、お母さんはどう感じられたんでしょう？

ち：障害は遺伝的な部分もあると話したことがあります。でもそれを話したら「もう今後一切そういう言葉は使わないで！」と言われました。

Chuntaの気まぐれ通信

2022/4/9

今日もがんばって食事をとりに来られました。
ついでに公園の春を見つけたいものです。

【春です】

春は、暖かくなり、花が咲く命の季節です。
希望の季節とも言われます。
みなさまはどんな気持ちですか。

私の春は、今はトンネルの中にいてまだ見えません。
貧困・寒さ・体調不良・数える『三重苦』なんて少なくて、
十二単を着ている様です。脱ぐのにもひと苦労です。
あたたかくて明るい春が恋しいです。

ましてや、いま支援を受けていることは絶対に言えませんが、もし知られたら罵倒されるか、縁を切られると思います。せ：つらさは現在進行形なんです。

ち：はい、十二単（じゅうにひとえ）なんです。
せ：え？それはどういうことですか？

TENOHASIさん
あったか情報
今週の炊き出しのお弁当

とんかつ 弁当

衣料配布について

次の衣料配布は、5月7日ですが、いま着るものがなくてお困りの方は、生活相談コーナーでご相談ください。今日は無理ですが、週明けにお渡します。

登車に  乗って
季節のたよりをお届けします。

東池袋公園の桜 2022/4/5
土曜日も見られることを願います。

※お問合せ先：090-1611-1970(清野)

ち：以前、家を出されてアパレル店員になったとき、「どんな服でも着こなしてやる！」って気合を入れて働いたんです。今も、さまざまに困難が積み上がって、まるで重たい十二単を着ているように。でも「泣いてもわめいて

も解決しないなら、この十二単を着こなしてやる！」という気持ちでいます。

せ：やっぱりすごい。今日は辛いこともたくさんお話しください。てのはしに貢献してくださっていることに感謝するとともに、この厳しい境遇をたぐいまれな反発力で生き抜いていらつしやることを尊敬しています。

ち：ありがとうございます。十二単は重いけれど、裾を支援者の皆さんが持つてくださるのでまだ歩けています。いつか脱げるときがきたらまたお手伝いいただきたいです。

「Chuntaの気まぐれ通信」

は、苦しさかわかる私だから届けられることを、並んでいる皆さんに「自分は並べないのに、本当にがんばって並べられていますね」という尊敬の気持ち、スタツフのみなさんへの感謝の気持ちを込めて作っています。これからよろしくお願ひします。

せ：こちらこそ、よろしくお願ひします。

*ちなみに、ペンネームの



「ちゅんた」は学生時代に一緒に暮らしたハムスターだそうです。画像は本人提供。

TENOHASI 活動報告

2021～2022

「コロナ禍での炊き出し」3年目の報告

・並ぶ人の層も変わりました。

・まず、女性が増えました。昔はほとんどいなかった若い女性が目立つようになりました。

1、炊き出しに並ぶ人の増加と変化

・2ページでも報告しましたが、炊き出しに並ぶ人の増加が止まりません。2020年春にコロナ禍が始まって、200人を超えるようになり、2021年1月に300人、9月には400人を突破。2022年5月に500人を超えました。

・20～30代と見られる方がスマホ片手に並ぶのは当たり前になりました。

NHKの「目撃につぼん」が炊き出しに並ぶ理由”では、発達障害で失業した若い男性が、炊き出しを「自分のようにはじかれた人の存在が肯定される場」と語っていました。

・コロナ禍で仕事も居場所も失った人が生きるために炊き出しに集まっていると思います。

2、お弁当配布

・てのはし自慢だった手作りの「ぶっかけ（汁かけ）飯」は、調理場も食べる公園も密になるので中止し、2020年春から持ち帰り弁当に切り替えました。・お弁当は2020年夏から「つるや庚申塚店」に発注しています。精米したての大盛りご飯と、ポリウムたっぷりのおかずはお腹も心も満たす力があります。個人経営の小さなお弁当屋さんですが最初は250食、最近では500食を超えるお弁当を廉価で提供してくださっています。

・パルシステムが毎回パンや果物を無償で提供してくださっています。

・その他、大塚モスクさん提供のピリヤニ、各地から寄付されたアルファ米などの保存食、飲み物も配るので、炊き出しでは、お弁当とパンや飲み物の2つの袋を持ち帰って頂いています。

3、配食方法の変更

・炊き出しに来た人が密にならないよう、またできるだけ滞在時間を短縮できるように工夫を重ねてきました。

・並ぶ間隔をあけるために地面に割り箸を貼り付けて目印にしています。

・整然と並んでもらう・割り込みやトラブルを防ぐ・スムーズに移動してもらうために整理誘導班を組織しました。お弁当を公園で食べると密になるので、食べはじめる人に注意する役割もあります。

・弁当・パンその他の食品はあらかじめスタッフで袋詰めしてから渡しています。これで500人がきても30分で配

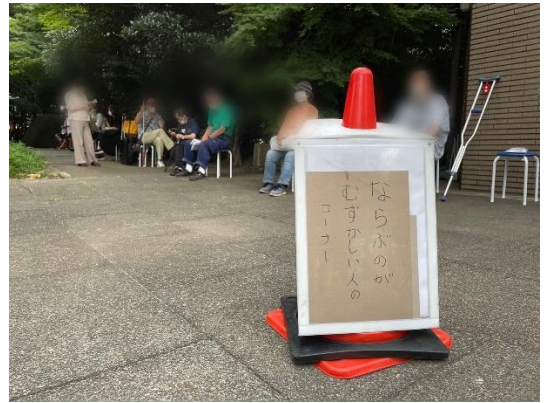
布を終了できるようになりました。

4. 並べない人コーナー・入り口案内係の設置と「気まぐれ onuta 通信」

「暗い公園で男性ばかりの列に並ぶのが怖くて、並ぶのをあきらめたことがある」という女性の声を聞いてこの春から設置しました。

・ 並べない人コーナーには椅子を置いて明るくし、並ぶのが怖い人・立って並ぶのが身体的に難しい人に利用していただく。*先にもらえると勘違いされないよう配布のタイミングは微妙に調整。

・ 案内係は公園入り口に「TENOHASIの炊き出しへようこそ」という看板を置いて、並ぶかどうかためらっている人に声をかけて案内します。



・ 「並ぶのをあきらめたことがある」ことを教えてくれた当事者女性が、並ぶ人へのメッセージと季節の便りを載せた「気まぐれ onuta 通信」を制作してくれるようになり、「池袋炊き出し情報」と両面刷りにして配布。くわしい経緯は「ちゆんだの想い」(9ページから)をお読みください。

5. 衣類配布

・ 利用者が公園に滞留する時間を短縮するために、衣類配布は炊き出しと分離して第一

土曜日の午前中に配布していきます。毎回120人前後が並べられます。

・ 衣類は短時間で選べるようあらかじめお寺で種類とサイズごとに仕分けし、テーブルに整然と並べます。

・ 女性が増えたので、女性コーナーを設置しました。

・ 石けん・カミソリ・タオルなどのアメニティ類も配ります。

・ 賞味期限切れの保存食(乾パン・アルファ米など)は炊き出しでは配れないので、「期限切れですがよかったどうぞ」と声をかけながら配っています。中には乾パンを箱単位で持ち帰る人も。

5. 運営体制

・ 配食・整理誘導などのセクションのリーダーで、炊き出しの運営を担う「炊き出し運営グループ」(現在13人)を組織し、毎回の準備・実

施・反省を行っています。ここから様々なアイデアが提案されて、手ごたえを感じています。

・ 炊き出しボランティアが登録するライングループは現在約140人が参加。

・ 1回の炊き出しを行うのに必要なスタッフは約40人。様々な役割を分担するので綿密な計画が必要です。ラインで参加スタッフを募集し、事務局でソフト原案を作成。炊き出し運営グループで検討し、参加者に連絡します。

・ 初参加者は1回6人を目安に募集。学生の体験学習的な参加も受け入れています。

6. 課題

・ いつになれば人数が減少に転じるのか? 500人を超えると列が公園の外に出てしまいます・・・

清野賢司

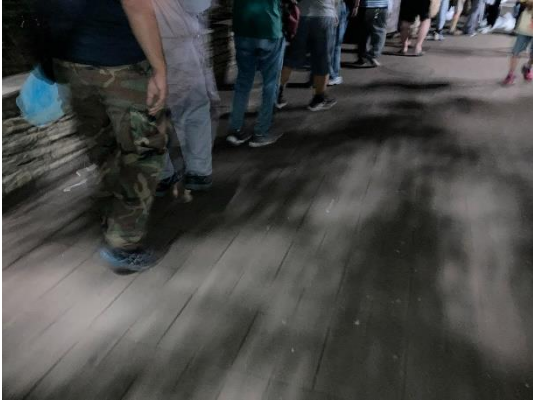
夜回り報告

1. 活動の概要

毎週水曜日の夜9時半から池袋駅及びその周辺の路上生活状態の方々への夜回り「アウトリサーチ活動」とおにぎり配りを行っています。

2. 夜回りで出会う人々

夜回りでは池袋駅2コース・西口・東口・椎名町駅の各コースに分かれ、寝床を訪問しま



す。お一人お一人におにぎりやパンとともに炊き出しや支援の情報をまとめたチラシを渡します。2021年度は毎回平均3.2人とお会いしています。コース別の平均は池袋駅1.7人、西口



が2名、東口が1.1名、椎名町駅が2名となっています。

3. おにぎり配布

池袋駅前公園（通称「うなぎ公園」）に並んだ人たちに実施しています。夜回りに出発する前の21時半に並ばれている方々におにぎりやパンなどをお渡ししています。2021年度は毎回

平均5.5の方がおにぎりを受け取りに並ばれました。

4. 配布するおにぎりやパン

おにぎりは夜回りの日に、ピアメンバー（路上生活経験者）とボランティアとで、毎回130個を作っています。

パンは連携している要町の「要町あさやけベーカリー」でピアメンバーも参加して、月に2回、毎回100個のパンを提供してくれています。

また「いけぶくろ茜の里」より毎回100個程度のパンの提供を受けています。また月に一



回、赤羽にある「New News's Kitchen」から無料でお弁当の提供を受けています。

前年度から続いて「自由学園」の中高生たちが月1回のペースでおにぎりを握って参加をしてくれています。

5. 夜回りにおける生活相談

夜回りでの相談は炊き出しによりもさらに切羽詰まった状態におかれている方が多くいらつしやる印象です。飯場や派遣の仕事がクビになったり、逃げてきたりして、お金や住まいを失い、「食べることも、安心して眠ることもできない」とおっしゃる方々に出会ってきました。昨年は合計で51名の方が相談に來られました。（文章の長さに一度区切った方が読みやすいです）生活保護の申請や、自立支援センター利用申し込みへの同行、求人紹介を行いました。手持ち金のない方には「東京アンブレラ基金」から翌日の申請や面接までの一泊分の宿泊費と食費の支援を行っています。

幸田良佑

医療相談

2021年4月～

2022年3月



- 実施回数 24回＋越年越冬期間3回
- のべ相談者数 1506人
- 紹介状・意見書発行数 39通
- ボランティア参加人数…医師22人、看護師10人、運営・運搬サポーター22人、医学生多数。
- 毎回約25人くらいが参加しています。
- 医薬品 寄付されたもの

風邪薬、湿布類、トローチ等
医薬品購入経費…約71万円
(熱中症対策のスपोर्टドリンク、虫よけスプレー約13万円を含む)

●新型コロナウイルス感染症予防キット配布数 17399セット

予防キット関連資材購入費用…約250万円

◆医療相談会◆

2021年度は、引き続きコロナ禍で常に感染防止に注意を払いながらの活動でした。炊き出しに並ぶ方が500人を超える中、医療相談会へ訪れる方も増えました。コロナ禍前は毎回30～40人でしたが、2021年度は、平均56人、最も相談者が多かったのは、1月22日の72人でした。医療機関への紹介状や福祉事務所への意見書は合計39通を発行し、過去最多でした。

コロナウイルスの感染拡大で、発熱相談ブースでコロナを疑う症状の方の相談もありました。高熱がある方が相談

に訪れ、東京都発熱相談センターから紹介された医療機関を紹介し、コロナ陽性が判明しました。幸い住まいのある方だったので自宅療養でしたが、その後も医療班で継続フォローし無事に全快されたというケースもありました。住まいのない方は、発熱しても滞在先がなく、検査や受診に繋がるのも遅れる傾向にあります。現状を行政に継続的に訴えてはいますが、改善策は見つかっていません。コロナ禍が続く限り、引き続き行政と協議が必要だと感じています。

また、2020年4月から新しい試みとして「こことから」のよろず相談ブースを設けました。毎回、精神科医を中心とした複数のボランティアがゆっくりお話を伺う活動は、希望者が後を絶たず、17時に始まった相談会が21時過ぎまで続くことも度々ありました。医療費の支払いの不安や、医療機関や公的支援窓口でのトラウマ体験を語られる方がいらしたり、

インターネットカフェで生活する中で身心共に限界を感じた方の相談だったり、内容は様々です。生活相談と連携して具体的な支援に繋がっていく方もおられます。しかし多くは、繰り返し、ただひたすらお話を伺うことが、その方たちの回復に必要なこともあります。幸い毎回ボランティア参加が多い状況なので、こうした場を設けることができました。

◆コロナ感染予防キット配布
昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染予防キット

(感染予防や相談先を記したチラシ、マスク、手作りマスク、アルコール消毒液、液体石けんやティッシュ、カイロなどをセット)を、炊き出しや夜回りに並ばれた方に手渡しました。お一人お一人に丁寧にお声がけすることで、体調や困り事を伺う、また支援情報をお伝えする機会として役立っています。

炊き出しに並ぶ人が増え、衛生キット作りの作業が膨大



になりましたが、毎週のようにピアメンバーやボランティアが作業してくれました。キット作りの場が居場所の役割を担い、仲間との語らいの場にもなっています。

◆住まいのない方のワクチン接種会◆

新型コロナウイルスの接種は、自治体がワクチン接種券を住民票のある住所に送り、予約の手続きは自身ですというものです。しかし路上やインターネットカフェなどの不安定な住まいに暮らす人、非正規滞在や仮放免の外国人

は、接種したくても接種券が手に入らず、接種するかしないかを選択する権利も奪われているという状況でした。

そこで、5月と7月の炊き出しでアンケートを実施し、600人以上の方の声を聞くことができました。保険証や身分を証明できる書類がないために接種をあきらめてしまっている人もいました。副反応や持病が心配、ワクチンの詳しい情報がないから受けたくない、副作用が出て保険証もお金もないので病院に行けない、など様々な声が聞かれました。また、もし接種後に発熱した場合に泊まれる場所が用意されるなら受けたいといった路上の方の声もありました。

それらの声をもとに身分証も住民票もない方が受けやすく、負担が最小限になるワクチン接種会の実現を目指しました。豊島区と何度も打合せを重ね、沢山のボランティア、声を上げてくれた当事者の方たち、そして、私たちの声に耳を傾け協働してくれた

行政のお陰で、90人近くが予約し、10月末に1回目、11月末に2回目の接種会を終えることができました。その後も引き続き医療相談会で、住まいの不安定な方へ接種券引換証のお渡しを続けています。

コロナ禍での炊き出し相談会は、毎回緊張を伴うものですが、今年も沢山のボランティアさんに支えられ、休まず活動できたことに感謝する一年でした。

世界の医療団 武石晶子



ほっと友の会 (お茶会)



いつもであれば、第4土曜の炊き出しの日に、公園内にダンボールを敷いて輪になって座り、コーヒーや手作りのお菓子を食べ、歌を歌い、そして場が暖まった後、落ち着いた雰囲気の中で話し合います。

しかし、新型コロナウイルス感染症拡大のため、現在は休会しています。早く状況が落ち着き、みなさんと語り合える時間がくることを願っています。

稲見得則

生活相談

炊き出し・夜回りでの生活相談にも多くの方々がいらつしやいました。

2021年度の相談者は361人（実数）で、新記録更新です。

*参考

2019年133人

2020年294人

相談者の平均年齢は約50歳で例年とほぼ変わらず。女性は42人で一割強でした。



相談内容は多岐にわたります。

おもな相談を挙げると・・・

1. コロナで仕事を失ったり、シフトが減るなどして収入が減り生活困窮になった。
 2. 貧困ビジネスの宿泊所に入っ て生活保護を受けたが、集団生活のストレスと、保護費のほとんどが利用料金としてとられるのが苦痛で逃げてきた。
 3. 障害があつて生活保護を受けたが、人間関係などのトラブルから施設やアパートを出てきた。などです。
- ただし、1から3は明確に分けることが出来ません。
例えば、
「障害をかかえながら働いてきた。コロナ禍で仕事を失ってアパートも失った。貧困ビジネスに声を掛けられて宿泊所に入って生活保護を受けたけれど、宿泊所でさまざまなストレスを感じて逃げ出したのはしに相談した」というようなケースです。

相談者への支援は

- ①生活保護申請の同行 79人
- ②自立支援センター申請の同行 14人



③就労支援 11人

その他、家探し・弁護士を紹介・生活保護についての質問に答える・生活保護のワーカーとの折衝などのさまざまな対応を行いました。

仕事探しの相談には、てのはしに寄せられた求人を紹介したり、自立支援センター（就労のための公立の寮）を紹介しました。

仕事にいくための交通費や会社 の寮に入るまでのネットカフェ代をお渡ししたケースもあります。

仕事がうまくいかなくて、再度相談し、生活保護申請に同行したケースもありました。

一回限りで終わる相談もあれば、何回も続く相談もあります。毎回、近況報告に来てくれる人、行政や大家への不満を吐き出しに来る人、不安を語ってくれる人などなど。

一人一人の困難は複合的で、例えば生活保護を受ければ一件落着ということではありません。その先に長い道のり：一人一人の人生があります。

そこに行けば気軽に何でも何度でも相談できる、そんな生活相談の場を続けていきたいと思いません。

清野賢司

ハウジングファースト東京プロジェクト

○宿泊施設の現状

東京都とその隣県では、家のない人が生活保護を申請すると、当面の宿泊先として民間経営の宿泊所に案内されるのが通例となつていきます。そのような宿泊所は東京とその隣県だけで3万人のキャンプがあるとされ、コロナ禍でどこも一杯という状況が続いています。

行政の指導で、同じ部屋で複数の人が寝泊まりする相部屋形式は減ってきたものの、トイレ風呂は共同という施設が大多数で、提供される食事を食べても食べなくても食費は取られ、利用料を支払うと手元に残る生活保護費が3万円〜数千円だけというところがほとんどです。良心的な宿泊所もあると聞いていますが、多くは貧困ビジネスと言われるようなところですよ。

大手の宿泊所は上野や新宿・池袋に支配師と呼ばれるリクルーターを派遣して路上生活者を勧誘し、生活保護を申請させ、

利用料を取るところもあります。

また、新卒の貧困ビジネスも現れました。郊外のマンションで入居者が集まらない不人気物件を安く買い取り、路上生活者を入居させ、生活保護を受けさせ、住宅扶助費を上回る高額な家賃を取り、物件の利回りを上げて事情を知らない第三者に高値で売り抜けるというビジネスモデルです。

そのような貧困ビジネスから逃げてきた相談者はとても多く「あんな生活はもう無理」とおっしゃいます。

○「普通の住まい」を

貴重な税金から生活保護費が出ているのに、利用者が元気になるどころか堪え忍ばなければならぬこの仕組みはどう考えてもおかしい。私たちは、最初から普通のアパートやマンションで生活し、そこから次のステップに向かう「ハウジングファースト」を日本の福祉に定着させるための実験

的なプロジェクト「ハウジングファースト東京プロジェクト」を2016年から行っています。プロジェクトは他団体多職種で構成され、相談・住まい・医療・日中の活動など生活全般を支える支援を行っています。

そのなかで一番大切な支援が、路上から直接入居できる普通のアパート⇨シエルターです。路上から直に普通のアパートに入居して頂き、そこで一人暮らしのためのさまざまな準備をして数ヶ月後には自分で契約した住宅に転居することを目指します。

○シエルター利用者実績

2021年度中のシエルター利用者は51人でした。そのうち

・24人がご自分のアパートに転宅(引っ越し)。

多くの方はその後も関わりが続いています。

・8人は残念ながらシエルター利用中に失踪または逮捕拘留されて退去。個人情報なので詳しいことは書けませんが、さまざまなドラマがありました。

*シエルターから失踪したけど、また戻ってきてシエルターを再利用された方が2名

・他は利用継続中です。

○シエルターの数と場所

2022年7月時点で22室。

豊島区に7室、練馬区に13室
板橋区に2室。

どこもバス(一部はシャワー)・トイレ・キッチンと家電のある普通の部屋です。

○最後のテント村

豊島区の公園でも、20年以上続いたテント村がありました。元は10人近くがそこで生活していましたが、だんだん住民が減って、最後の5人になったところでリーダー格のYさんが病気で亡くなりました。

残った4人は豊島区・てのはしと話し合って、てのはしのシエルターに3人、役所が用意したアパートに1人と全員が引っ越して、今は全員がご自分で契約したアパート・マンションで生活されています。80歳のいままさんは「テント村はよかった」と懐かしんでいらっしやいます。家のある生活もまんならではない様子です。

清野賢司

鍼灸・整体

こんにちは、TENOHASI鍼灸班は、雨が降らない限りTENOHASIの炊き出しのある毎月第2・4土曜午後東池袋中央公園にてテントを張って、鍼灸・マッサージ・整体をしています。テントやベッド等は、東池袋四丁目はりきゅう院からリヤカーで運んでいます。

2021年4月～2022年6月の活動報告です。

★この間に変化があったのは主に以下です。

① 2020年4月11日から始めた、治療前のコロナに



関わるチェック等を、2022年1月8日をもって終わりとしました。

② TRUST（東京路上鍼灸チーム・公園の鍼灸治療以外に独自で活動しているチーム）として2020年4月9日以降行った公園の患者さんへの飲食物等の配布を2011年11月13日をもって終了しました。多数のマスクや飲食物その他の物品及び現金計358000円ものご寄付を頂きました。

③ 鍼灸班とは別に、以前来られていた指圧師のお二人が、コロナ禍で来られなくなり指圧ができない状態でしたが、2021年4月24日より、鍼灸班でマッサージも始めることにしました。

④ 2021年12月25日より、整体が鍼灸班に加わりました。

⑤ 2022年2月12日から治療開始時間を16時からを15時からに1時間早めました。その分終了も早めました。

⑥ 2022年2月12日からテント及びリヤカーをTEN

OHASIの会計から出して頂き新しくしました。

★活動実績

① 鍼灸班全体

実施回数 30回
参加スタッフ延人数 193名
（内治療者延人数 135名）

患者さん延人数 587名
（男性442名・女性145名）

② 内訳

（1）整体

実施回数 9回
治療者延人数 9名
患者さん延人数 43名
（男性36名・女性7名）

（2）マッサージ

実施回数 27回
治療者延人数 37名
患者さん延人数 212名
（男性155名・女性57名）

（3）鍼灸

実施回数 30回
治療者延人数 89名
患者さん延人数 332名
（男性251名・女性81名）

★治療者数の変遷

① 整体

2021年12月25日より一人体制です。

② マッサージ

2021年4月24日以降三名が交代で参加し2名体制だったこともありましたが、現在は一名のみの体制です。

③ 鍼灸

2021年4月より14名が交代で参加し毎回4ベッド体制だったこともありましたが、現在は2名で2ベッド体制がほとんどです。

④ 受付

2021年4月よりほとんど1名体制ですが、今後2名体制となる予定です。

★鍼灸班では常に鍼灸師・マッサージ師・整体師が不足しており、施術師の募集をしています。施術師が増えればより多くの患者さんを施術可能となります。

見学も可能ですので、ご興味のある方は左記石崎までご連絡ください。

ishizaki.t@jasmine.ocn.ne.jp

石崎卓

2021 年度 会計報告

前年度からの繰越		49,150,502	
収入	正会員会費	18,000	
	寄付金	54,010,247	
	助成金	930,000	
	利息	55	
	合計	54,958,302	
支出	炊き出し	食材・ガス・輸送用トラック 経費等	7,995,299
	夜回り	食材・チラシ等	574,577
	生活支援	食費・宿泊費・交通費他	8,849,187
	家賃	シェルター・事務所家賃	3,072,000
	シェルター光 熱水通信費		4,813
	業務委託費	スタッフ謝金	7,259,339
	交通費	スタッフ交通費	837,565
	事務費	会報誌・通信連絡費等	1,970,804
	合計		30,563,584
	単年度差し引き合計		24,394,718
次期繰越		73,545,220	

皆様

2021年度は、炊き出しに並ぶ人が増えて、配布する弁当代が1回20～25万円になったこと、生活相談の利用者が増えて生活支援費が増大したこと、職員を増員(現在5名)したことなどから、経費が初めて3000万円を超えて、2020年度の2倍近くになりました。

しかし、同時に、皆様から予想を遙かに超える多くのご寄付を頂き、大幅な黒字決算となりました。本当にありがとうございました。これほど多くの、お気持ちの籠もったお金を皆様からお預かりし、身の引き締まる思いです。

これだけあるなら今までの事業の規模を拡大するだけでなく、新規事業など立ち上げるべきという考えもあると思います。しかし TENOHASI は、この場所で、お互いに顔が見える関係で、お互いに手の届く規模で、支援活動という名前のお手伝いをやっていきたいと思っています。

これからもどうぞご支援をよろしくお願いいたします。

新人スタッフ 自己紹介

てのはし生活相談員の幸田良佑です。てのはしに1月に入職して7月で半年を迎えました。どうやら職員の義務として会報誌に文章を寄せなければならぬようなので、本号ではてのはしに入職した経緯など、自己紹介をさせていただきます。

私はどうやら大変に老け顔のようで、人に私の年齢を訊ねてみると30歳、40歳と言われることがあります。生



活相談ではこんなことがありました。相談に来られた方に過去の経歴を聞き取りをしていった時のことです。「ちょうどお兄さんぐらいの時に東京に出てきて市場でリフトの仕事に就いたんだ」とおっしゃいました。「それは何歳頃のことですか?」と質問したところ「38歳ぐらいかな」と答えられました。その時、私

は18歳だったので実年齢とは20年の差があります。

実際の年齢を伝えたら悲鳴をあげて倒れこんでしまわれそうなので黙っています。こうして日々傷つきながら生活相談をしています(笑)

私は一昨年の3月に高校を卒業して、二部の大学に通いながら働くことになりました。最初にニュース番組の制作会社にリサーチャー見習いとして入職しました。しかし、直属の上司がパワハラ気質で、「ここには長くいられないな」と感じ1か月と少しで退職してしまいました。次の食い扶持を見つけるためにとりあえず大学の学生部に行って、掲示板に貼ってあった図書館の蔵書整理のアルバイトに応募。翌月から働き始めました。親からは早く扶養から外れる、と言われていて、社会保険に加入できる仕事に就きたかったのですが、自分の関心と重なる仕事がない

が見つからず、結局蔵書整理の仕事を半年ほど続けました。図書館というのは年に一度「蔵書点検」と呼ばれる資料の有無や配架の位置について確認する作業があります。リストと照らし合わせていく中で、何冊か貸し出し状態にはなっていないのに書架にならぬ本を見つけました。そのうちの1冊が『漂流老人ホームレス社会』でした。タイトルでお分かりになる方もおられると思いますが、てのはしを立ち上げたうちのお一人である森川すいめいさんのご著書です。私は高校時代に一度てのはしの夜回りに参加したことがあり、てのはしという名前も森川すいめいさんのお名前も知っていました。どんな内容なのだろうか、と他キャンパスの所蔵から取り寄せて読んでみました。DV、認知症、派遣切りなど、様々な困難を抱えつつ路上生活を送られている方々の現実について知りました。私はその頃、毎

月家賃を含めて10万少しの収入でやりくりをしていて、「きついなあ」と感じていたが、いざとなれば帰ることのできる実家はあるし、みっともないけれどお金も無心もできる。住まいも、戻ることのできる場所もない、という方々が置かれている現実とは比べ物にならない。立っている位置が全く違う、と感じました。私はもつと現実を見てみたいという思いもあり、知人の伝手を頼って、てのはしの炊き出し・夜回りに参加するようになりました。

清野さんによるボランティアセミナーを受講したのが、たしか昨年の8月頃。大学や仕事で疲れてお休みしたことがありましたが、炊き出し、夜回りにはコンスタントに参加していました。現場から学びたい、支援活動に関わってみたいと鼻息荒く参加を始めたわけですが、気づけばそんな思いも忘れて、毎週水曜

日の夜回りと第2第4土曜日の炊き出しが待ち遠しく思うようになっていました。利用者の方に名前を覚えてもらって、ちよつと遅れたら「あれ、幸田君遅刻？」と声をかけてもらったり、ガムや飴などをもらったりして夜回りを居場所のように思うようになりました。

そうして活動にも慣れ始めた12月頃に、いつも夜回りと一緒にいる生活相談員の高橋さんに「いつも相談員としてどんなお仕事をされているのですか？」と伺いました。生活保護申請の同行の様子やシェルターについて丁寧に説明してくださったのを覚えています。そこで私は「生活保護の申請同行、やってみたいですね」と体験学習するつもりでお伝えしたのですが、いつの間にかやら、清野さんの耳に入る頃には「幸田が生活相談員として働きたいと言っている」と変換されていたよう



で、翌週の夜回りで、世界の医療団の武石さんから「幸田くんは週に何日入れるの?」「時間、曜日は?」といきなり勤務日の聞き取りをされました。内心「なんだ?この話は聞いてないぞ」と戸惑っていました。仕事にできるのも面白いかもしれない、とって乗ってみることにしました。

そんなこんなで、てのはしに入職して半年経ったわけですが、日々勉強の毎日です。

福祉の制度や仕組みの勉強はもちろん、相談者に対してどのような関わりが望ましいのだろうか、ということ悩みながら働いています。相談者本人の希望や思いをしつかりと聞いて、望まれる生活設計のお手伝いができたらと思っています。

ほかの相談員のみなさんのように福祉事務所や国の制度設計に対して、問題を指摘したり提案したりしてみたいのですが、不勉強なもので何が問題で、何を改善しなければならぬのかということがまだはつきりとは見えていません。「ソーシャルアクション」を実践できる支援者になりたいと思っています。どうか温かい目で見守っていただければ幸いです。

幸田良佑

TENOHASI の活動

○炊き出し&医療・生活相談&鍼灸 毎月第2/第4土曜日 東池袋中央公園

*コロナ対応で、現在、衣類配布は毎月第1土曜日に行っています。

○おにぎりと夜回り 毎週水曜日 池袋駅前公園～池袋駅とその周辺

○ハウジングファースト東京プロジェクト まず、安心できる住まいを！

活動資金のカンパをおねがいします！

郵便振替 00190-8-259686 特定非営利活動法人TENOHASI

銀行振込 ゆうちょ銀行019(せいのけい)支店当座259686 トクビ) テノハシ
クレジットカード決済 ホームページからお願いします。

物資カンパ

衣類・靴・カミソリ・マスク・石けん・食品（缶詰・レトルト食品）など

*現在、調理作業ができないのでお米や野菜は募集を停止しています。

*送り先：下の「発送元」欄参照

お問い合わせ

メール：TENOHASI ホームページの「お問い合わせ」から

電話：080-4733-7920 (事務局 平田)

特定非営利活動法人TENOHASI 会報第43号 2022/9/1発行	発送元
<input type="checkbox"/> HP https://tenohasi.org/	〒177-0045
<input type="checkbox"/> メール tenohasi@yahoo.co.jp	練馬区石神井台6-1-28
<input type="checkbox"/> facebook https://www.facebook.com/tenohasi/	TENOHASI事務局
<input type="checkbox"/> twitter https://twitter.com/tenohasi	TEL 090-1611-1970
印刷 アビーム(社会福祉法人復生あせび会)	

会報誌のweb版をホームページにアップしています。

*個人情報保護のためweb版では「ご寄付御礼」ページは削除しています。

「紙の会報誌は不要」という方は、お手数ですが上の「お問い合わせ」からご連絡ください。